

Newsletter From China 要旨(2005年3月7日)

1. 下水汚泥処理に関する新技術(上海、2005年2月22日)

中国の科学者は、下水汚水と汚泥と言う、都市化で最も頭の痛い二つの問題を、有機質肥料並びに農薬に効率的に転換する技術を開発した。

上海の Huadong 大学の Chen Liqiano 教授をヘッドとして、開発された閉鎖型の好気性発酵技術が、上海市の科学技術院の専門家による科学的評価を、最近、パスする事が出来た。

専門家はこの技術が高く評価しており、この技術で下水汚泥の臭気が取れ、廃棄物を資源に転換する事が出来ると言っている。

上海下水処理場の試験に依れば、この技術により汚泥はトン当たり約2千円で処理される。現在、中国の下水処理場は年間9百万トンの汚泥を出し、この量は年間平均10%増加している。

現在、中国では、焼却と地下埋設の二つの方法で、増加する下水汚水汚泥処理を行っている。

2. 香港の資源循環利用計画決定(香港、2005年2月21日)

香港の資源循環利用推進審議会は、6ヶ月の公開検討期間の終了に伴い、香港の資源循環戦略に関する最終答申を取りまとめ、この春には、政府に報告する。

この検討期間中、審議会には固形廃棄物管理、循環可能エネルギー、都市生活スペースを含む三つのパイロット分野に関する2000近くの提案があった。

3. 廃棄物に依る汚染は、鉱山の事故に依る汚染よりも有害である。

ある著名な地質学者は、鉱物資源の採掘場から出る廃棄物は、鉱山の事故に依る汚染より10倍も有害であると警告している。

これらは、主に銅鉱山、アルミニウム鉱山、亜鉛鉱山からの重金属で、空気、水を汚染し人の健康に害を与え、重金属を過剰にとると、脳血管、肝臓、腎臓が損なわれる。